

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

発生予察情報の送付について
病害虫発生予察特殊報（第1号）を下記のとおり発表したので送付します。

令和2年度 病害虫発生予察特殊報（第1号）

令和2年10月23日
愛媛県

- 病害虫名 ナシシロナガカイガラムシ *Lopholeucaspis japonica* (Cockerell)
ミカンマルカイガラムシ *Pseudaonidia duplex* (Cockerell)
- 作物名 ブルーベリー
- 特殊報の内容 愛媛県における発生の初確認
- 1 発生地域 松山市
- 2 発生経過
令和2年2月にブルーベリー枝に寄生するカイガラムシ2種が確認された。愛媛大学農学部客員研究員の田中宏卓氏に同定を依頼したところナシシロナガカイガラムシとミカンマルカイガラムシであることが確認された。
両種とも国内に広く分布し多くの樹木類等に寄生する在来種であり、県内でもこれまでに多くの果樹で寄生が確認されているが、ブルーベリーでの寄生は国内でも初確認である。
- 3 害虫の特徴
- (1) ナシシロナガカイガラムシ (写真1)
- ア 形態
雌成虫の介殻は細長く白色で長さは約3mm、介殻の色は白色であるが古い介殻は表面の分泌物がはがれて、光沢のある赤褐～暗褐色のキチン化した2齢脱皮殻が露出することが多い。雄の介殻は雌に似るが小型である。
- イ 寄主植物および生態
ナシ、クリ、ウメ、サクラ、ボケ、ハゼノキ、アカメガシワ、ケヤキ、イヌツゲ等極めて多食性で、針葉樹類を除く雑多な樹木類に寄生する。年1回の発生で、2齢幼虫で越冬し、4月中～下旬に成虫となり、成熟した後産卵を開始する。ふ化幼虫は5月下旬～6月に現れる。
- ウ 被害の特徴
幼虫と雌成虫が枝、幹に寄生する。ナシ等では多発すると枯死枝や枯死株が生じる。
- (2) ミカンマルカイガラムシ (写真2)
- ア 形態
雌成虫の介殻はほぼ円形で大きさは約3mm、介殻の色は紫褐～暗灰褐色。雄幼虫の介殻は小型、楕円形で偏平。
- イ 寄主植物および生態
カンキツ類、ナシ、カキ、ヤマモモ、カシ類、シイ、ツバキ、サザンカ、ヒイラギモクセイ、チャ等極めて多食性。年2回の発生で、雌成虫で越冬し、第1世代ふ化幼虫は5月下旬頃から現れ6月中旬に発生最盛となる。第2世代は8月下旬～9月上旬頃から現れ、9月中～下旬に発生最盛となる。
- ウ 被害の特徴

幼虫と雌成虫が主に枝、幹、ときに葉面や果実にも寄生する。カンキツ類等では多発すると生育は衰えて枯死枝を生じ、幼木では枯死する。

4 防除対策

- (1) 冬期にマシン油乳剤を散布する。
- (2) 生育期にはカイガラムシ類に適用のある薬剤（表1）を散布する。ただし、成虫に対する防除効果は低いため、必ず幼虫期に行う。
- (3) 今回確認された園地で天敵（寄生蜂）の寄生を確認しており、この天敵の防除効果は高いと考えられることから、不用意な薬剤散布は控え天敵の保護を図る。

5 参考資料

河合 省三（1980）：日本原色カイガラムシ図鑑，全国農村教育協会，東京。
 梅谷献二・岡田利承編（2003）：日本農業害虫大事典，全国農村教育協会，東京。



写真1 ナシシロナガカイガラムシ（左：枝への寄生状況 右：雌成虫）



写真2 ミカンマルカイガラムシ（左：枝への寄生状況 右：雌成虫）

表1 ブルーベリーのカイガラムシ類に使用できる薬剤一覧

農薬の種類	希釈倍率	使用時期	使用回数
マシン油乳剤（95％）※1	12～14倍	- ※2	-
ラビサンスプレー	30倍	発芽前	-
ダーズバンDF	3,000倍	収穫14日前	2回以内

※1 複数の商品有、登録は落葉果樹

※2 芽が動き出してから散布すると薬害を生じる恐れがあるので散布しない。